

## 第2回諏訪湖環境研究センター（仮称）のあり方検討会における主な発言及び対応案

項目	主 な 発 言	対 応 案
湖内の貧酸素化	動植物プランクトン調査（②）やDOの全面測定（⑤）は、年度比較をしていくと、環境的な事案の問題が起こった時など、ある程度特異性が見え、原因の推定にもつながると思われる。（傳田委員）	今後の調査・研究に当たり、参考とさせていただきます。
	湖底地形や湖内流動等の把握も必要と思われる。ワカサギ等の大量死やアメーバの発生等の事象にも対応できるようになるのでは。データが有機的につながってくる。（傳田委員）	今後の調査・研究内容の検討に当たり、参考とさせていただきます。
	色々な調査が行われていることは分かるが、データをどのように活用していくかが見えないように感じられる。例えば諏訪湖のシミュレーションモデルにデータを活用しているか等。データを総合的に捉えていく部分が必要と思われる。（宮原委員）	今後の調査・研究内容の検討に当たり、参考とさせていただきます。
	今、貧酸素は悪者になっているが、例えば貧酸素により窒素が大気中に放出されるなどプラスの面もある。プラス面、マイナス面の両方を整理した上で対応していくことが必要である。情報不足になってしまう。諏訪湖の湖心が貧酸素になることが悪いのかどうか。水産的には良くないかもしれないが、湖にとってはそうでない場合もある。そういったことが理解できる組織（センター）にしていく必要があるのではないか。（沖野委員）	貧酸素をはじめ各種課題の影響を整理するとともに、効果的な調査研究及び情報発信について検討してまいります。
	例えば、諏訪湖のモデルの中で流動が解かれた場合に、地形データ等を、空間を合わせて入れておくと、非常によくなると思われる。諏訪湖の水をたたえる器のほうのデータを充実させるとよい情報になると思われる。（傳田委員）	今後の調査・研究内容の検討に当たり、参考とさせていただきます。
	この調査内容だけでは少し無理があると思われる。底泥酸素要求量の調査が重要である。国土交通省のマニュアルを参考にされたい。（今井委員）	H30年度から底泥の調査を開始したところです。調査方法については、国交省のマニュアルを参考にさせていただきます。
	「生態系の保全」が漠然としている。ワカサギを守ることなのか、シジミなのか。共通のイメージが持てるようまとめていかないと、単に色々調査研究をしているだけになってしまうのでは。（宮原委員）	諏訪湖創生ビジョンにおける生態系保全に関する目指す姿「多種多様な生き物を育む湖」の実現に向け、取組を進めてまいりたいと考えております。
生態系の保全		

項目	主 な 発 言	対 応 案
生態系の保全	<p>「生態系」というと諏訪湖を含む流域の全てである。諏訪湖の生態系がどういうもので成り立っているかということを理解した上で、そのうちの何をこれまでにやってきたのかを整理する必要がある。エコトーンに定義があるように生態系にも定義がある。生態系保全の中の何を主体にして、現在こういう調査をしていて、ほかに何が必要かということを議論していく必要がある。(沖野委員)</p>	<p>諏訪湖創生ビジョンにおける生態系保全に関する目指す姿「多種多様な生き物を育む湖」の実現に向け、取組を進めてまいりたいと考えております。</p>
	<p>エコトーンはヒシだけではない。昔生息していた主な生き物が今生息しているかを調査しないとエコトーン復活の道筋は描けないと思われる。(沖野委員)</p>	<p>諏訪湖創生ビジョンにおける生態系保全に関する目指す姿「多種多様な生き物を育む湖」の実現に向け、取組を進めてまいりたいと考えております。</p>
	<p>諏訪湖の水生植物帯はしっかりと色々なパターンで展開されている。マップ化等によりそこを理解していくと諏訪湖の特徴が分かり、目標やあるべき姿が見えてくるのではないかと。(傳田委員)</p>	<p>H30 年度からドローンの活用により、湖畔の植生別の分布状況を作図する調査に取り組んでいます。</p>
ヒシの大量繁殖	<p>ドローンによる動植物モニタリング調査(⑫)は有効である。(今井委員)</p>	<p>調査結果を有効に活用してまいります。</p>
	<p>動植物モニタリング調査(⑫)をC・Dゾーンで行う理由はどうか。水草の復活を期待しているのはBゾーン付近だと思われる。 また、水草によりピークの時期が異なるため、全部を把握するのは難しいかもしれないが、季節的な移り変わりも把握できるとよいのでは。(宮原委員)</p>	<p>H30～32 年度の3年間で湖畔全域を調査する予定です。 季節変動につきましては、今後の調査・研究内容の検討に当たり、参考とさせていただきます。</p>
	<p>衛星画像を使って1枚で植物の分布状況を把握すると有効と考えられる。(傳田委員) 諏訪湖を観光資源の面から捉えている傾向があった。ヒシは悪ととらえている面があったが、そうでない部分があるようなのでセンターでしっかり研究していただきたい。(下諏訪町)</p>	<p>衛星画像活用の方法を情報収集の上、検討してまいります。 今後、ヒシも含め水生植物による影響を整理し、分かりやすく情報発信していきたいと考えております。</p>
全体その他	<p>環境保全研究所も含め研究内容(テーマ)を示していただきたい。また、重複してもよいので各機関の業務を水質と生態系別に示していただきたい。(今井委員)</p>	<p>(第3回検討会で提示予定)</p>

項目	主 な 発 言	対 応 案
全 体 ・ そ の 他	資料2-P1の環境保全研究所の業務で、精度保証・管理や水生生物保全水質調査は諏訪湖関連と位置付けられていないがなぜか。(今井委員)	県全体を対象としているため諏訪湖関連として位置付けの標記はしませんでした。水生生物保全水質調査は諏訪湖を含めて実施しています。
	環境保全研究所と松本保健福祉事務所で別々に水質測定を行っているようだが、その関係が分かりにくい。(今井委員)	(第3回検討会で提示予定)
	資料2-P1には諏訪建設事務所で実施している調査も記載しないと全体像が見えてこない。(沖野委員)	建設事務所は整備等事業の一環として調査等を実施しているため記載しませんでした。データの共有や各種対策等、十分連携をとっていきたいと考えております。
	センターを新しく設置するのであれば、調査研究をどのようなものにしていくかの提案が必要。何をまとめ、何を分散して行うのか、何を協力して行っていくのか等。(今井委員)	(第3回検討会で提示予定)
	資料2-P3には4つの課題が記載されているが、同じレベルの課題が4つ上げられているわけではない。生態系全体に関わる課題と生態系の部分に関わる課題とに分けて、上げられた課題間の関係が分かるように整理する必要がある。「生態系の保全」にはどのような項目があり、それぞれの調査がどの項目に当たるのかという仕分をしないと、一般の方には分かりづらく、色々調査しているだけのように見えてしまう。もう少し諏訪湖を中心に整理したほうがよいのではないか。(沖野委員)	今後のセンターの体制の検討に当たり、参考とさせていただきます。
	「生態系の保全」は調査研究の目標である。生態系の中には環境と生物がある。環境項目と生物環境に関する調査をそれぞれ整理して示すと足りない部分が見えてくる。筋を追って整理していかないと、色々調査しているだけのように見え全体の関係が分かりにくい。 調査研究の情報発信がうまくされていないので、センターを設置してその役割を担っていくという話になるのではないか。(沖野委員)	今後のセンターの体制の検討に当たり、参考とさせていただきます。

項目	主 な 発 言	対 応 案
全 体 ・ そ の 他	資料2は研究者でない職員が作成しているので、具体的な課題や不足しているものが記載されておらず分かりにくくなっているのではないか。整合性の高い研究課題のセットアップと、それに対する対応方針と研究テーマをつくれるのは研究者の方であり、そういう研究者の方を、それなりの数でセンターに置くことは極めて重要だと思う。(今井委員)	今後のセンターの体制の検討に当たり、参考とさせていただきます。
	センターでは、諏訪湖や長野県の湖沼・河川に関する課題やテーマの拾い上げ、網羅性の検証、優先順位付け、関係機関へのテーマの分配・差し立て等の役割を担っていただきたい。(小口委員)	今後のセンターの体制の検討に当たり、参考とさせていただきます。
	センターには調査研究をもとにどのような提言をしていくかという役割を担うと考えられる。今何を調査研究していて、これからどうやっていくかを示さないと検討が進んでいかないのではないか。(水試)	第3回以降の検討会で提示していきたいと考えております。
	9月市議会の一般質問で諏訪湖におけるマイクロプラスチックに関する質問があった。資料2に掲げられた以外の新しい課題等にセンターはどのように対応していくのか検討することも必要ではないか。(岡谷市)	今後の調査・研究内容の検討に当たり、参考とさせていただきます。
	流入河川の水質測定を市町村でも実施しているが、センターへの集約や調査方法を統一できるようセンターが市町村にアドバイスするということも考えられのでは。(諏訪市)	今後のセンターの体制の検討に当たり、参考とさせていただきます。
	色々調査研究をしているようであればもっと広く情報発信をしたほうがよいのではないか。個人的には行政以外のところが調査研究をしたほうが進むと思っている。(山崎委員)	今後のセンターの体制の検討に当たり、参考とさせていただきます。
	琵琶湖では「琵琶湖の本」を製作している。諏訪湖でも作ったらどうか。(今井委員)	民間団体の「諏訪湖クラブ」において、子ども向け冊子「諏訪湖読本」の製作を進めております。